

メロンの接ぎ木苗生産における養生管理方法

メロンの接ぎ木作業には晴天の続く日を選び、接ぎ木後、遮光した密閉トンネル内で養生します。養生開始後2～3日間ポリフィルムをべたがけすると、温湿度の保持と活着促進に効果があります。また、光反射シートや赤外線反射フィルムによる遮光はトンネル内の温度上昇を抑制します。

接ぎ木前後の受光量の影響

接ぎ木日前後に曇天が続くと接ぎ木苗の活着程度や接ぎ木後の生育が著しく劣るため、接ぎ木作業は晴天の続く日を選んで行います。

接ぎ木前後の遮光が接ぎ木苗の活着に及ぼす影響

試験区名	活着程度 ²⁾
遮光 ¹⁾	1.2
慣行	2.6

1) 接ぎ木日および前後2日、慣行区をさらに黒寒冷紗（遮光率80%）で遮光した。
2) 接ぎ木後7日目の活着程度：活着(3)、ややしおれ(2)、しおれ(1)、枯死(0)



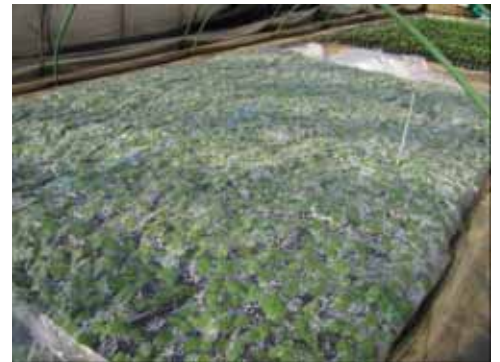
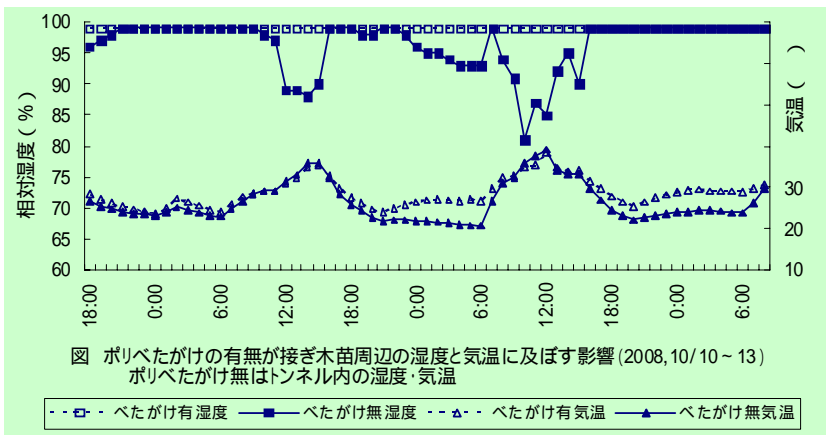
接ぎ木後7日目（左：遮光、中央：慣行）



接ぎ木後27日目（左：遮光、中央：慣行）

ポリフィルムべたがけの効果

養生開始後2～3日间接ぎ木苗へポリフィルムをべたがけすると、温湿度が保持でき、接ぎ木苗の活着と生育を促進できます。



接ぎ木苗へのポリフィルムのべたがけ

遮光資材による昇温抑制

養生時に光反射シートや赤外線反射フィルムでトンネルを遮光すると、黒寒冷紗で遮光した場合に比べてポリべたがけ内気温を2～3度低くできます。

遮光資材の違いがポリべたがけ内気温に及ぼす影響（右図）
遮光率はいずれの区も約95%に調整した。
気温は11/19の17時～11/22の16時までの毎時ごとの平均値で、天候はいずれも晴れ。

